

議論して、深めて、形にする “自分ごと”で楽しく取り組む知財研究

情報活用委員会 委員長

田中 克昌 氏

(所属：アズビル株式会社)

interview

自己紹介

現場サービス、営業を経て知財部門へ異動いたしました。
業務ではリエゾン業務、調査・分析を行っております。
JIPA活動は2024年から情報活用委員会に参加しております。
あまり関西弁を話さないで誤解されがちですが、関西（兵庫県）出身です。

Q 研究テーマとそれらを選んだ背景・理由は？

【2026年度の研究テーマ】

- 第1小委員会：特許情報、非特許情報の分析を統合するAIツールに関する研究
- 第2小委員会：IPランドスケープを知財戦略・知財方針の策定に活用するための実践的手法の研究
- 第3小委員会：FTO調査におけるAI活用法と信頼性確保に関する研究
- 第4小委員会：AIを活用した特許調査の高度化と品質保証に関する研究
- 第5小委員会：知財活動の投資対効果と財務価値の可視化に関する研究
- 第6小委員会：知財分析の教育プログラム開発に関する研究

知財情報の活用方法は一つに決まっているものではなく、社会動向、技術動向に合わせて日々変化していきます。そのため当委員会では、委員の皆さんからのご意見を取り入れながら、今の時代に合ったテーマを柔軟に設定しています。最近では、生成AIの急速な進展を背景に、その活用に対する関心が委員会内でも高まっています。

今年度は、大きく以下の3つのテーマを軸に活動しています。

- ・知財情報の調査・分析
- ・知財情報の企業戦略への活用
- ・知財情報活用の教育・人材育成

幅広いテーマ設定とすることで、委員の皆さんが興味を持ちやすくしています。これにより各人が「自分ごと」として主体的に関われる活動を目指しています。

Q 委員会の特長／魅力は？

当委員会が大切にしているのは、「楽しみながら、主体的に取り組むこと」です。

委員会活動を単なる業務の延長として義務的に進めるのではなく、委員一人ひとりが前向きに、楽しみながら参加することで、活動の時間がより有意義なものとなり、成果の最大化にもつながると考えています。そのため、当委員会では、応募時点での研究

テーマをあえて抽象的に設定しています。委員同士で議論を重ねながらテーマを具体化し、自ら考え、実行していくプロセスを重視しているためです。まずは「自分が面白い」と思えるテーマに取り組んでいただけるよう、自由に前向きな雰囲気づくりを心がけています。

また、交流の機会が豊富であることも、当委員会の大きな魅力の一つです。

委員はさまざまな業界・企業から参加しており、普段の業務では得られない視点や経験に触れることができます。活動は立場に関係なく対等な関係で行われ、分かることはお互いに教え合い、分からないことは一緒に考えるなど、互いに高め合いながら議論を進めています。

さらに、外部の有識者との意見交換の機会が多い点も特徴です。研究テーマをより深く掘り下げるだけでなく、有識者とのネットワークを広げることもできます。近年は成果報告会到有識者をお招きし、研究内容に対するフィードバックをいただくことで、研究のさらなる深化にも取り組んでいます。

加えて、当委員会では、知財情報活用に関する知識やスキルだけでなく、チームをまとめる力も養うことができます。

委員長・副委員長は委員の皆さんの中から選任され、委員会や小委員会を運営・推進する役割を担います。大変ありがたいことに、近年は多くの委員に参加いただいています。その一方で、参加者が増え、意見が多様になるほど、議論を整理し、方向性をまとめる難易度も高まります。年齢、役職、経歴など、多様なバックグラウンドを持つメンバーの意見を受け止め、整理し、活動を前に進めていく経験は、社内ではなかなか得がたい貴重な機会となります。

Q 委員会としてのこだわりは？

当委員会では、原則研究の成果を形にして、外部へ発信するようにしています。具体的には、「知財管理」誌への論説投稿や東西部会での発表などを通して、委員会の外にも積極的に情報を届けていく予定です。

知財情報の活用については、まだ手探りで取り組んでいる企業も少なくない状況だと思います。そうした中で、当委員会活動に貴重な時間を割いて参加いただいている委員の皆さんも、それぞれの立場で成果を期待されているのではないかと感じています。私たちは、知財情報活用に役立つ考え方や手法を、できるだけわかりやすく“見える形”で発信していきます。委員の皆さんはもちろん、会員企業、そして知財業界に関わる多くの方々にとって価値のある委員会になることを目指しています。

